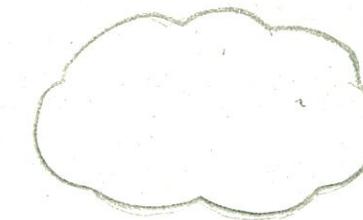
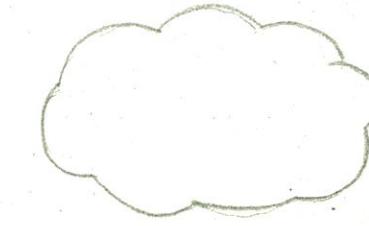
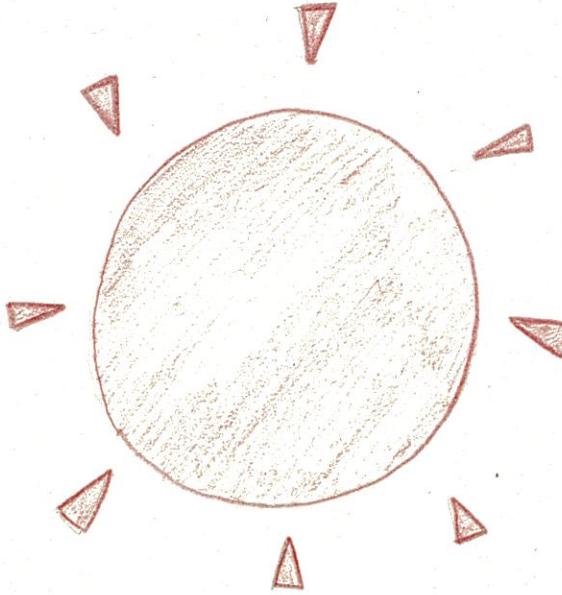
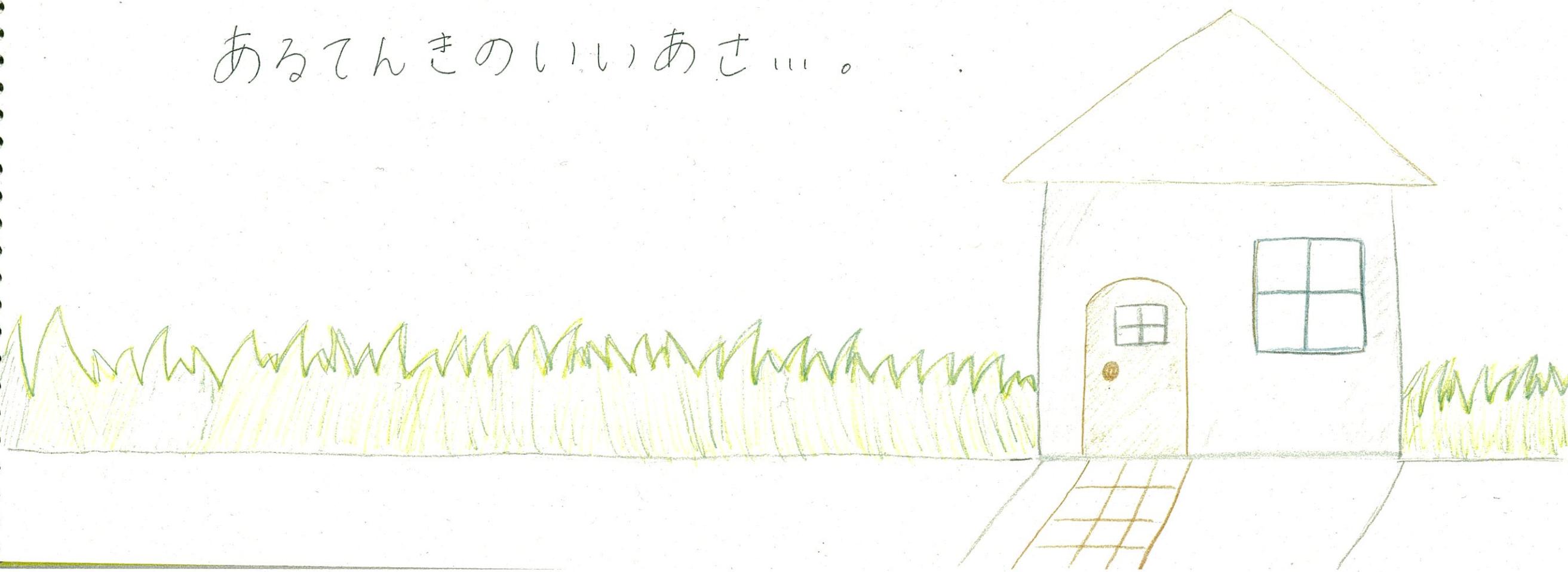


か  
い  
い  
も  
い  
ま  
い





あるてんきのいいあさ…。

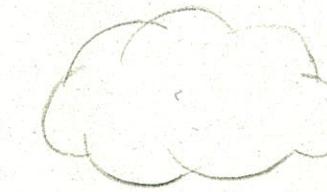
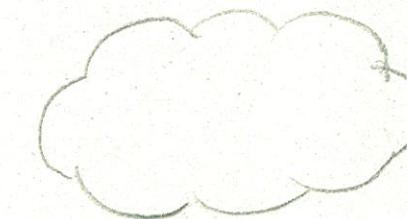
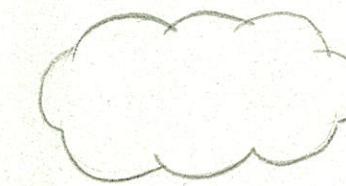
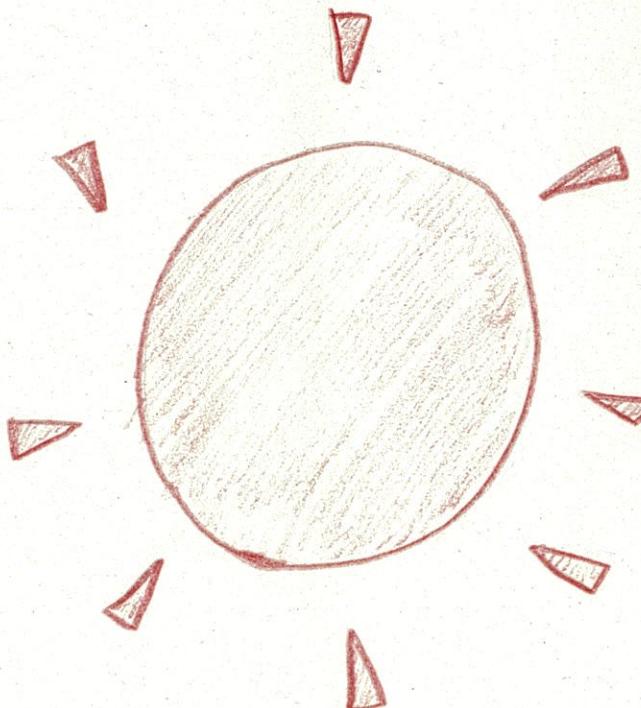


おかあさんが「ぼくにいた。

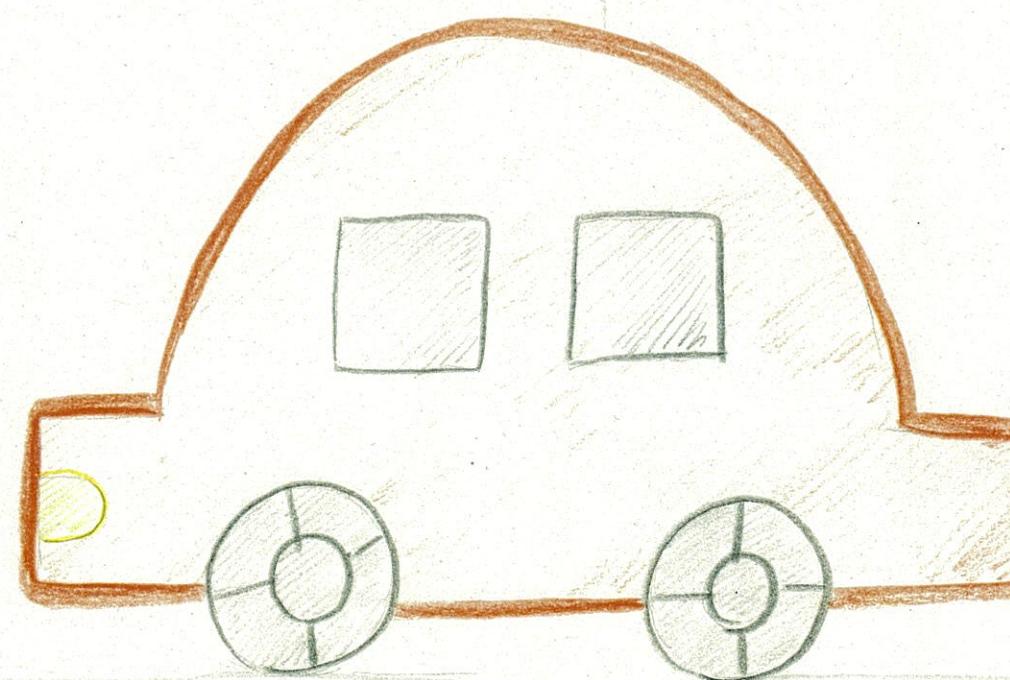
「きょうはおじいちゃんとおばあちゃんのいえにおいもほりにいくよ。」と。

ぼくはおいもがきらいだけどおじいちゃんとおばあちゃんに見えるから  
いくことにした。





おかあさんとぼくは  
したくをしていえでた。

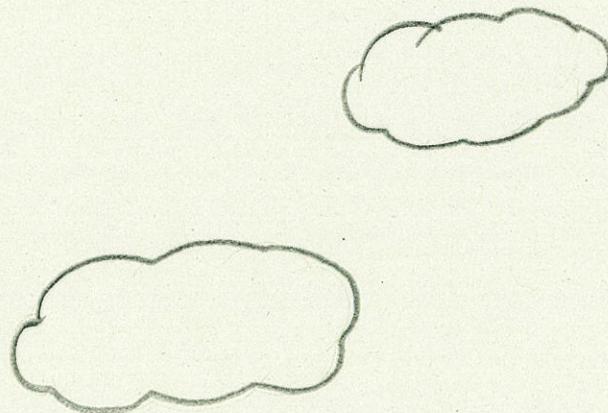


いりこついた。

「おじいちゃん！ おばあちゃん！」と  
ほくはてを引いた。



「よ来到了ね。」とおじいちゃんと  
おばあちゃんはいった。



「きょうはたくさんおいもを  
ほろうね。」とおばあちゃん  
は、こっこりわらっていった。

「うん!!」とぼくはいった。

らいしょ！

らいしょ！



「みてみて～!! おおきなおいも  
たくさんとれたよ。」



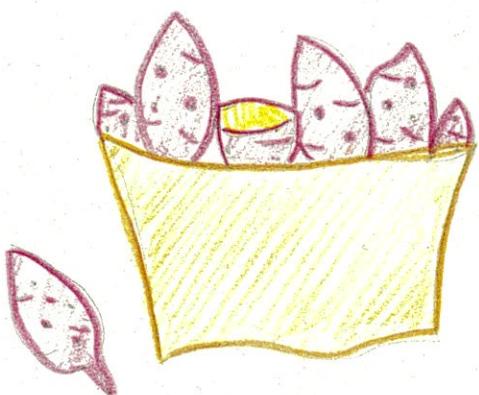
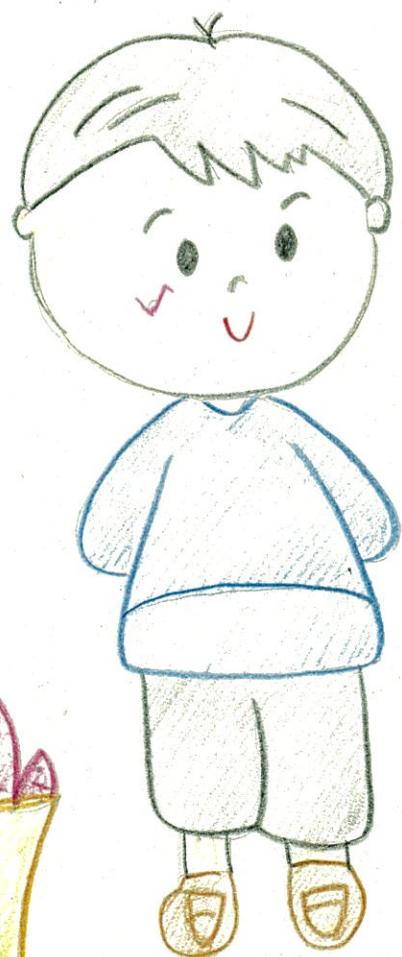
「わあ～すごいね、  
もってかえっておかあ  
さんにおいしいごはん  
つくってもらいたいなさい。」  
とおばあちゃんはいった。

「うん…わかった。」  
とほくはいって。

「おじいちゃん、おばあちゃん  
きょうはありがとう。」とぼくはいった。



「またいってもおいでね。」と  
おじいちゃんとおばあちゃんはいった。



ぼくはうれしいおいもを  
もってかえった。

いえにかえるとおかあさんが"もってかえった  
おいもで"しちゅーをつくりはじめた。

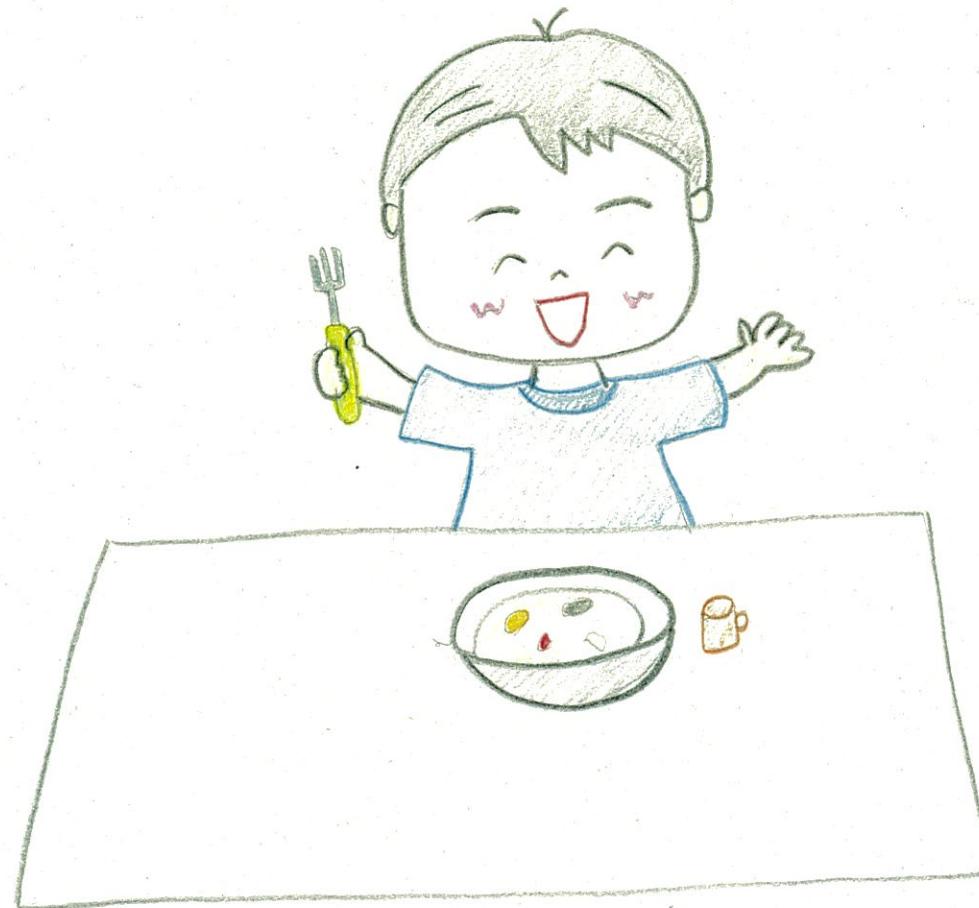


すぐ"にしちゅーが  
できあがった。

ぼくはおなかペコペコだったので

「いたたきま～す！」とおおきなこんでいい。

たべはじめた。

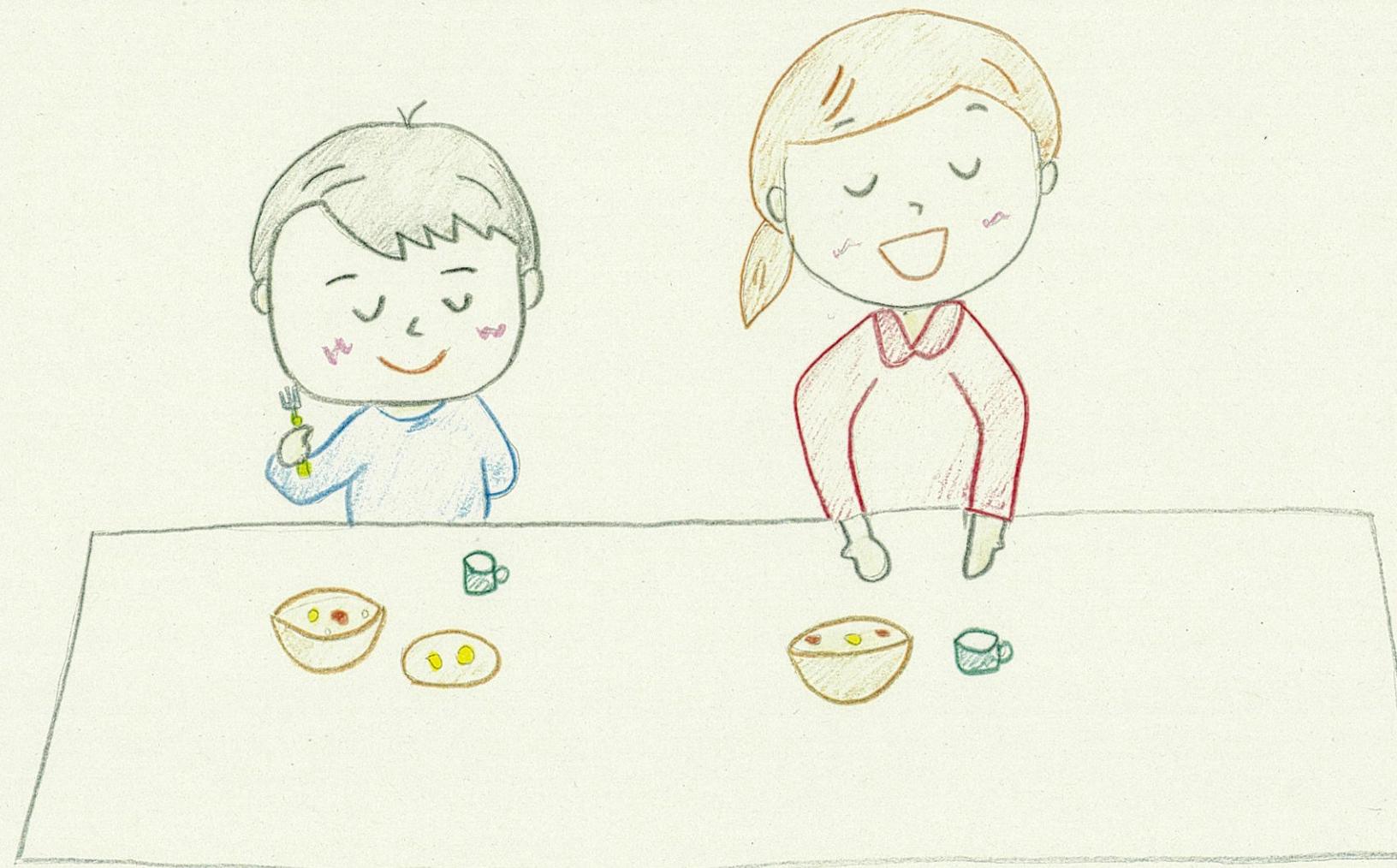


しかし。。。

ぼくはおいもをよけてたべていた。

それをみていたおかあさんがいって。

「おいももたべてみはさい。」と。



おかあさんにそういわれ  
わざわざたげたべてみた。



あれ？！ きういにたけとたべてみると  
すこしあまくておいしくかんじた。



そのとき

（3）とおもひだした。



おじいちゃんとおばあちゃんと  
おいもほりとしたことが“すぐ”  
たのしかったことを。

ぼくはまたいろいろなやさいとりに  
いきたいとおもった。

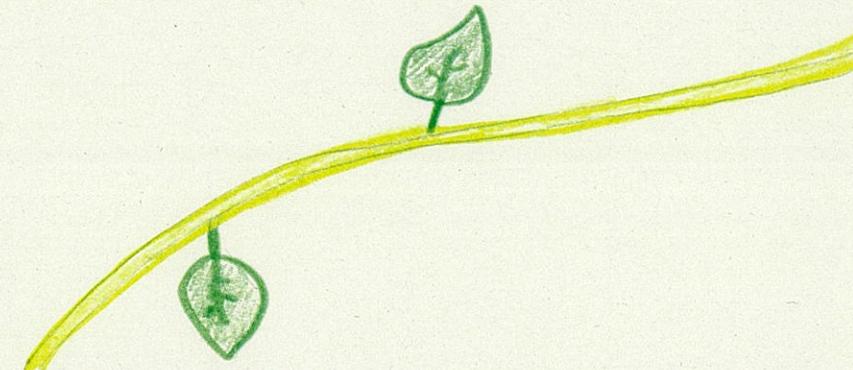
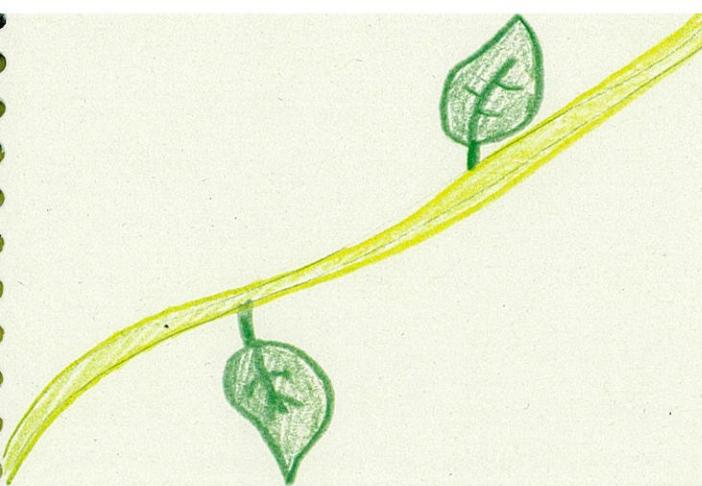
おかあさんはこりゅうて  
ぼくのあたまをなでなでしました。



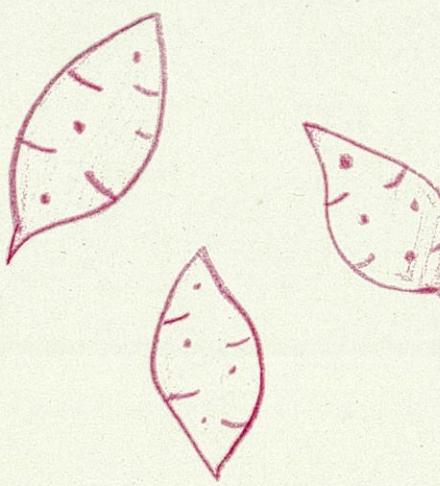
おかあさんはぼくが"たいせつ"なことに  
きづいてくれてうれしかった。

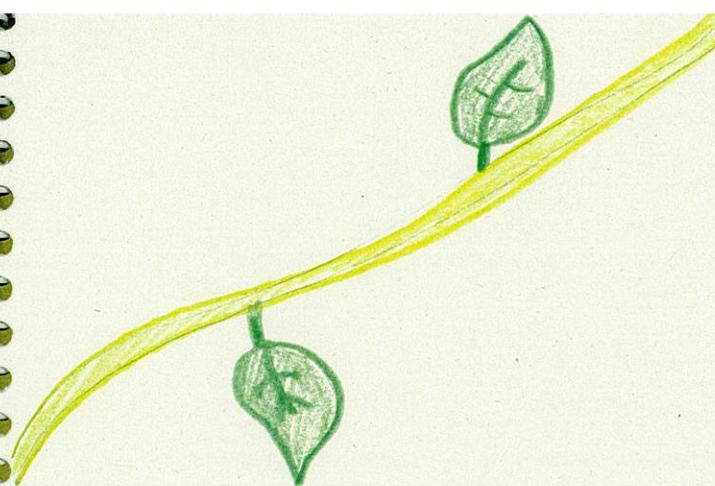
ほくはおいもりをとおしてたべることのたいせつさや  
あたたかさをかんじたのびあつた。





おしまい





おしまい

